

編集後記

新型コロナウイルスに警戒をしつつ、日常を取り戻すための努力がなされています。一人一人が With コロナの生活に慣れていく必要があります。

神経化学59巻1号をお届けします。本号から新企画「私と神経化学」の掲載が始まりました。今回は、御子柴克彦先生と永津俊治先生のご寄稿を掲載しております。御子柴先生も永津先生も、「熱い思い」をもって研究を推進されるとともに、後進を育成されてこられたことがわかります。サイエンスは日進月歩ですが、未知のことに挑戦するサイエンティストの心持ちは変わらないものがあります。元気と活力を頂ける文章です。輝け次代の担い手たちは、廣田ゆき先生にご執筆いただきました。大脳皮質発生におけるリーリンの役割について、これまでの研究をまとめられた力作です。reeler マウスの最初の報告から約70年ですが、今後のさらなる発展が楽しみです。研究室紹介は、宝田剛志先生(岡山大学)、中澤敬信先生(東京農業大学)、柴崎貢志先生(長崎県立大学)、池上浩司先生(広島大学)、板東良雄先生(秋田大学)、竹林実先生(熊本大学)にご執筆いただきました。それぞれの先生方が、熱意と理想を持って研究室の運営をされている様子が伝わってきます。多くの日本神経化学会会員の先生方がご自身の研究室を運営される立場になられているという事実は、たいへん頼もしく感じております。研究室とご研究の益々の発展をお祈りします。海外留学先からは、清水崇弘先生にご寄稿いただきました。イギリスで充実した研究生生活を送っておられる様子が伝わってきます。イギリスでも新型コロナウイルスが猛威を奮い、ジョンソン首相も感染したという報道がありました。たいへんな時期を過ごされたと思いますが、今後のさらなる活躍を祈っております。永津俊治先生からは、永田豊先生の追悼文のご寄稿もいただき、永田先生のご貢献を知ることができました。本号をまとめている最中に、2019年度日本神経化学会奨励賞を受賞された吉田慶多朗先生の訃報に接しました。吉田慶多朗先生は、一連の素晴らしい論文をまとめられ、正にこれからの活躍を期待されていた若手研究者でした。お二人の先生のご冥福を、心よりお祈りいたします。

竹林浩秀(新潟大学)

公式アカウントによる Facebook を始めました。

<https://www.facebook.com/694342057338890/>

学会からの情報(大会開催・公募情報・学術集会等)や記事(神経化学トピックス・研究室紹介等)を随時配信していきます。

是非、「いいね!」をクリックして下さい。

皆様からの情報もお待ちしております!



QRコードからも
アクセスできます